

近畿中国局フォレスターNEWS

滋賀森林づくり推進協定に基づく運営会議を開催（滋賀県）



運営会議による意見交換の様子



植付箇所における説明

5月21日(火)、滋賀森林管理署は同署会議室において、「滋賀森林づくり推進協定」に基づく今年度第1回目の運営会議を開催し、(一社)滋賀県造林公社から5名、滋賀森林管理署から8名の計13名が出席しました。

会議では署長挨拶の後、①運営会議の趣旨の確認、②お互いの事業予定等の情報共有を行い、これらを踏まえ今後の具体的連携について意見交換を行いました。

会議終了後は、三郷山(さんごうやま)国有林(甲賀市)に移動し、シカ防護柵設置及び植付箇所の見学を行い、保護伐*から植付までの事業内容について意見交換を行いました。意見交換では、①使用しているコンテナの購入先、②皆伐地より外側の立木を防護柵の支柱に使用している理由、③コンテナ苗を使用するメリットなどについての質問がありました。これに対して、①滋賀県山林種苗協同組合から購入しているが、購入先の指定は行っていない、②皆伐地際の立木は風の影響を受けやすく、台風等の強風により倒木のリスクが高いため、外側の立木を使用している、③コンテナ苗は植栽穴が小さいため、枝条を気にせず植え付けることができ、また植栽時期を選ばないので、伐倒木を搬出後速やかに作業道等を用いて運搬、枝条を完全に取除かないまま植栽することで草本類の成長を妨げ、それによって下刈りの回数を減らし、コストを抑えることができる等と回答しました。

今後お互いの情報を共有しつつ、より地域に貢献できるよう取組を継続していくこととしています。

※保護伐とは、一団の人工林を、モザイク的(一区画が2.5ha以下の小面積 区画伐採)に配置された森林への誘導や、針葉樹と広葉樹が混交した保護樹帯を整備することにより、国土の保全、水資源の涵養等森林の持つ公益的機能の高度発揮と合わせ生物多様性が確保された多様な森林環境の形成を図るために行う伐採方法です。

森林共同施業団地における連絡調整会議を開催（岐阜県・三重県）

6月21日(金)、岐阜県海津市役所において悟入谷・古野裏山(ごにゆうだに・このうらやま)地域における森林共同施業団地の連絡調整会議を、当該団地協定者、団地内の造林者、森林経営計画策定関係者、オブザーバー及び関係市から34名が出席し開催しました。

当日は、当該森林共同施業団地における平成30年度の森林整備の実施状況の報告、令和元年度・令和2年度の年次計画を事務局である三重森林管理署の担当者から説明を行いました。

続いて、今年度の新たな取組である「民有林と国有林が連携したシステム販売」、「北側エリアでの連結作業道の検討」について説明しました。

また、昨年11月の現地検討会で、鉄鋼スラグを使用した簡易で安価な林道補修の可否について意見があったことから、鉄鋼スラグを用いた修繕の検討経過を事務局から報告しました。なお、小規模な林道補修ではコストがかかり増しになり、鉄鋼スラグを使用した安価な林道補修は困難であることから、今年度、関係者間で現地にあった修繕について検討することとしました。

次に、当該森林共同施業団地内の国有林における昨年度のニホンジカの捕獲状況について事務局から説明した後、今年度は捕獲区域を拡大したうえで、捕獲開始時期も1ヶ月程度前倒しする予定であることを共有しました。

最後に、協定期間の終期である令和3年3月31日までの残り2年間について、引き続き関係者間で連携して取り組むことを確認し、会議を終了しました。



事務局担当者による議事説明

情報誌 林野 (RINYA) 6月号に森林共同施業団地の取組が掲載されました

情報誌 林野(RINYA)6月号に、三重森林管理署が所管する悟入谷・古野裏山(ごにゅうだに・このうらやま)国有林と隣接する三重県・岐阜県の民有林との間で協定を結んだ「悟入谷・古野裏山地域森林共同施業団地」の取組が紹介されました。

変更協定を経て現在総面積1,659.32haの当該共同施業団地では、民有林から効率的に木材が搬出できるよう、国有林林道から民有林側へ新たに路網を連結したり、国有林内にある木材集積場(中間土場)を利用することで作業効率を上げ、搬出コストを削減しています。

本年度は新たな取組として、民有林と国有林が連携した木材販売を行う「民国連携システム販売」を行う予定です。

情報誌 林野(RINYA)6月号は、下記のURLを参照ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/jouhoushi/3106.html>

地域林政連絡会議を開催(岡山県)

6月27日(木)、岡山森林管理署会議室において、令和元年度地域林政連絡会議が岡山県美作県民局及び森林管理局、岡山森林管理署関係者が出席し開催しました。

会議では、各機関から今年度の取組・事業予定について説明し、その後獣害対策等について意見交換を行いました。

美作県民局からは、①シカ被害対策について、これまでは田畑等の農地において農作物の防護対策が大事であるとの認識であったが、今後は農地からシカの住み処である森林にかけての捕獲事業を強化していくこととしたい。また、今年度から委託事業により首用くり罠によるシカ捕獲を行っており、捕獲の検証を行う。②治山事業実行について不落不調が続いているが、再公告の際は現場の状況を一一つ丁寧に積み上げ、入札参加条件を緩和する措置を講じることで、多くの森林土木業者に入札参加を促している。等の説明をいただきました。

国有林からは、シカ捕獲(首用くりわな、くりわな(小林式誘引捕獲))の実証結果についてスライドを使用しながら説明を行い、併せてツキノワグマの錯誤捕獲防止の取組を紹介しました。

今後も、県との情報交換を行い地域林政の課題解決に向けて情報共有に御協力をお願いすることとして会議を終了しました。



令和元年度 地域林政連絡会議
(岡山県美作県民局)

令和元年度 民国連携研修会の開催(和歌山県)

来る8月9日(金)9:00~16:00の予定で、紀南文化会館(田辺市新屋敷町1番地)及び宮城川(みやしろがわ)国有林(すさみ町)において、和歌山県と和歌山森林管理署との共催により、「再造林・保育作業の省力化による森林育成技術の革新」と題し、和歌山県内の森林組合、林業事業体を対象に令和元年度「新・紀州林業への挑戦」民国連携研修会を開催します。

和歌山県では、平成29年度に「和歌山県森林・林業総合戦略」を策定し、計画的な素材生産に向けた取組を行っており、素材生産量は年々増加しています。

一方で、素材生産後の伐採跡地における確実な再造林と効率的な保育作業が求められています。本研修会では、保育作業の全国における先進的な取組を幅広く紹介し、和歌山県に適した施業手法を検討するとともに、省力化の取組事例として、ドローンを活用した森林管理の実演をご覧ください。

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

これまで「近畿中国局フォレスターNEWS」は奇数月に発行しておりましたが、本年度から7月、10月、1月及び4月に発行月を変更しました。

引き続き、フォレスター等の最新の活動情報についてお知らせしていきます。